

第 1 回斐伊川水系中海支川域川づくり検討委員会 議事録

日 時：令和 5 年 9 月 11 日（月）13:30～16:30

場 所：安来市役所 防災研修棟研修室

1. 開催挨拶

- ・松江県土整備事務所長あいさつ

2. 委員会設置要綱説明および委員紹介

- ・設置要綱説明
- ・委員紹介

3. 議 事

(1) 中海支川域の概要について

- ・事務局から配布資料 1 について説明

【委員①】

- ・この度、新規に田頼川、津田平川の河川改修が計画に挙がって大変喜んでいる。計画に挙がらないと実施されないので、まずは計画に挙がるのが一番かと思う。
- ・上流端が津田平川は起点までだが、田頼川は農道までなのはなぜか？その理由も先ほど説明されたが、同盟会としては田頼川も起点まで計画に入れてもらいたい。
- ・というのも、飯梨地区では今年から大型ほ場整備が始まる。現在でも少しの雨量ですぐ氾濫する状態にある。私が住んでいる西中津付近（資料 3、p. 27 参照）では、平成 25 年に山根大水門上流付近まで河川改修が終了しているが、その後いくたびも両河川が溢れて災害を被っている。
- ・飯梨地区のほ場整備により、今までよりも川に流れ込む水の速度とピークが必ず早くなるものと予想している。なので、飯梨地区のほ場整備と合わせて、なんとしても起点までの計画を立てて頂き、改修をお願いしたいというのが地元の切なる願いである。

【事務局】

- ・会長には地域のとりまとめ等をして頂くなどお世話になり、大変ありがとうございます。お蔭様で、ようやく整備計画のなかで議論するような状況になり、県としても有難く思っている。
- ・そのうえで、上流端の設定の考え方についてだが、この河川整備計画というのは今後 20～30 年の計画を立案するものである。田頼川の農道までの改修と津田平川の改修とで、

予算的に30年でどこまでできるのかという行政判断をしなければならない。そうしたところ、ざっと見積もって60億円近い予算が必要となってくる。30年継続して年間2億円程度ずつの予算を配分したとしても、農道付近の区間までしか改修できない。

- そのうえで、どうして農道に設定したのかという細かいところを説明すれば、ひとつは河川改修は下流から進めていかないといけないということがある。どこかで区切る場合には、その効果を発揮しなければならない。例えば、この赤線区間の真ん中（横堤となる農道等がない区間）で改修を止めてしまった場合には、上流の氾濫が堤防の背面に回ってしまい、事業の効果が出てこない。上流で氾濫したものが川に戻る地点まで設定していかなければならないということで、ひとつ考えられるのが農道となる。農道は田んぼよりも少し高い位置にあるため、上流で氾濫した水が川に戻るとシミュレーションしており、そういった場所で設定している。
- それから、田頼川を改修しても、津田平川の氾濫で田頼川の左岸側が影響する。田頼川の左岸側を守るには津田平川の改修もしていかなないといけない。なので、田頼川の下流から改修を進め、上流の氾濫が止まるところ、下流に影響を及ぼさないところまでまずやって、それから津田平川の改修を進める。予算的にできる範囲に限度があるので、県としては今回の設定は農道までと考えている。
- ただ、当然これで終わりということではなく、もちろん上流についても川幅が狭いので改修を進めていかないといけない。そういう意味で、「将来も継続して河川改修をやる」という県の意思表示を、将来計画という形で整備計画の付属資料に示している。
- ほ場整備は10年くらいで整備されると聞いている。先ほど予算の話もしたが、このスケジュールと合わせてやっていくというのはとても難しい。他にも3河川あり、それらも進めていかなければならない事情もあり、今回の上流端を設定しているというのが、今の県の考え方である。

【委員①】

- まだ実際に予算は立っていないわけで、見越してということだと思うが、今、30年後の計画を立てようとしている。その計画を立てようとしているのに、「県としては起点までと思っているけれども、予算の関係上は30年後はここ（農道）まで」だと言う。間違っていたらすみませんが、そういう計画はちょっとナンセンスではないかと思う。
- 30年後に計画どおり進むかなんて誰にも分らない。計画は計画として、きちんと計画するのが正解だと思う。中途半端な計画をして、30年後にどうなるかわからない。30年はかなりの年月なので、計画だけはきちんとしてほしいというのが、地元の願いである。

【委員長】

- このブロックだけで55河川もあり、そのなかで1つの川だけを進めると、当然他の川が

遅れるということになってくる。30年後の1番良い理想を描くというのは、地元の想いとしては当然解るが、そうするとどこか他で割を食う場所が出てくる。どうしてもバランスが必要だと個人的には思う。

【事務局】

- ・会長の想いは大変よく理解した。まずは将来の計画をしっかりと示すべきではないかという話はある。例えばだが、将来計画の絵を何も見せないということではなく、整備計画とは別に、測量をして「今の考えではこういった横断形になりますよ」といったお話をさせて頂くことはできると思う。
- ・整備計画というのは、20～30年でやる範囲を示すという、法律で決まったものがあるので、そういったところで少し住み分けをした示し方ができるのではないかと思う。そのようなお話をさせて頂くことでどうか？

【委員①】

- ・失礼なことを言っているかもしれないが、私共の願いは是非とも起点まできちんと計画を立ててほしいということ。
- ・先ほど来、農道までという話があるが、県道も横断している箇所がある。ちょうどカーブになっていて、非常に川幅も狭くなっている。たいした距離ではないので、県道までという案もあるのでは？

【事務局】

- ・農道が横堤になるという話をしたが、ちょうど県道も同様に周辺農地よりも高い位置にある。距離にして（農道よりも）300m程度上流になる。上流端（起点）だと1kmも上流になり、検討するという話にはちょっとならないが、県道までということであれば、この場ですぐに返答することは難しいが、案として持ち帰って検討し、次回委員会あるいはそれまでの間でお話をさせて頂ければと思う。

【委員①】

- ・プレッシャーなどはかかってこないか？

【事務局】

- ・色々とお話は伺っており、この場ですぐというのは難しいが、ひとつの案としてご提示頂いたと思って、次回までには結論を出させて頂きたい。

【委員②】

- ・河川整備計画の田頼川上流端について、広域農道までという話であるが、その直上流に県道を横断するボックスカルバート（正確には橋梁）があり、その左右に田頼集落と津田平集落が存在する。その集落の方は、自分たちの集落の下流までが整備計画範囲で、自分たちの集落がまったく入っていないのをすごく不安に思っている。下流までしか計画に入らないのではないかという話も巷で流れている。「自分たちの集落の要望はいつになったら…」ということもよく言われる。やはりそういうところも酌んで、県道までは整備計画に入れて頂きたい。
- ・飯梨地区では、今年から10年かけて220haのほ場を整備する計画である。通常は換地という手法で大きなほ場を作ったり、地権者を集めたりしてやっていくが、公共施設用地も換地で生み出す。なので、整備計画に入っている場所はもちろんだが、上流端までの区間についても用地幅を示して頂き、換地によって用地を生み出して準備させて頂きたいというのが地元の考えである。100m×100～200mの大型ほ場になるので、川沿いの地権者は同じ人が続くことになる。個人買収と換地で売り出す公共用地の土地とでは、地元にとっても受け止め方がすごく異なる。皆で共同減歩で創設して、河川整備計画の準備をするという気持ちが地元としてはあるので、そのあたりをよろしく願いたい。
- ・整備計画の田頼川上流端について、地形地物として広域農道までが適切か、300m上流の県道横断までが適切なのか、現地を見れば一目瞭然なので、是非とも現地を見て頂きたい。
- ・以上の3つが地元の声なので、よろしく願いたい。

【事務局】

- ・上流端については、農道がよいのか県道がよいのか、上流にも氾濫域があるとのことなので、少し持ち帰らせて頂きたい。
- ・整備の順番についても、先に農道まで整備して津田平川をやってから県道までいくのがよいのか、それとも県道まで整備してから津田平川をやった方がよいのか、ということもあろうかと思う。地元の声もお聞きしたいと思っているので、少し持ち帰らせて頂くとともに、次回委員会までの間に、ご相談や個別にお話しをさせて頂けたらと思う。
- ・ほ場整備における創設換地については、上流部は整備計画には載らないかもしれないが、どのような横断形になるのかということはお示ししていきたい。そのためには、川の縦断形が分からないと横断形が示せないで、測量から入ることになる。なので、少しお時間は頂くことになるが、そちらも検討しようと思う。ただ、最終的なきちんとした詳細設計ではなく、整備計画でも示しているような、標準的な横断でどのくらいの幅になるのか。それを踏まえて、ほ場整備で事前に用地を準備して頂くような考え方で調整させて頂きたい。
- ・3点目として、現地を見て頂くという話があった。今回は河川数も多いということ、ま

た最近ではドローンなどもあり、話の途中で画面を止めて「こういう状況ですよ」というのが割と見やすいという状況もあるので、今回はこのような形を試させて頂いた。他の委員会でもこういったやり方をしていたので、採用させて頂いた。

- ・現地視察という方法もあるが、今日のところで説明が不足していて補足しておきたいところがあれば、お聞きしたりもできると思う。委員の皆様には、素案について事前にお話しをさせて頂いてから今日の日を迎えており、内容が全く初めてということではない形で取組んでいるので、その点もご理解頂けたらと思う。

【委員長】

- ・「現地を見たら、農道がよいか県道がよいかが目瞭然」とのことだが、それを簡潔に補足説明して頂けるか？

【委員①】

- ・計画の上流端について、広域農道地点で水が止まって田頼川に戻ってくるから効果的、計画的にその地点がよいと説明されたが、県道の地点も同じ。県道が広瀬方面へ向かい、田頼川が山裾を流れており、県道でせき止められて田頼川に戻ってくる。そういう意味では、300mほど上流の県道横断の場所でもその説明は十分できると思う。
- ・また、田頼と津田平の集落が直上流にあり、2～3日長雨が続くと田頼川が氾濫する。田んぼなども水浸しになって流れてくるので、田頼と津田平の集落にとってはすごい恐怖である。自宅の2階から見ると周りが全部水浸しになっている（他の河川もそうかもしれないが）。
- ・現地で見れば、そのような地形になっているのがよく判るのではないかと思う。

【委員③】

- ・資料1 p. 25にある市街地中心を流れる木戸川、万歳川、伯太川の3河川で成り立つ集落に関する質問である。木戸川の改修について、川幅と河床を広げて流量を確保するとの話だが、河床は非常に重要だと思う。というのも、伯太川は従来砂鉄を取っていた時代からカナナ流しが終わってほぼ100年が経つが、川底がどんどん下がっている。そのために伯太川の浚渫が必要になったり、つい最近では、伯太川の近くから安来市の上水道を取水しているが、ここでも水が枯れだし、なおかつ水質も悪くドベ茶色の水になっているというように、大きく様変わりしてきている。
- ・今は赤線の部分までの工事がほぼ終わっているが、その上流の黒線の部分については、従来は手作業で川浚いをして土手に上げていたが、今は背丈を超えるくらい河床が下がっており、従来と全く違う形になってきている。なので、こういった河床の部分はどうやって保持していくのか。実際には大きく下がっているというのが皆さんの実感であり、重機

を入れて作業する必要が生じている。また、従来の土手と呼ばれる部分も非常に狭いので、それらもきちんと確保していきながら、新たな作業形態を作ることも視野に入れて作業しなくてはならないのかなと思っている。

- ・なので、河床を単に下げればよいということではないと思うが、そのあたりの考えを教えてください。

【事務局】

- ・河川改修の計画を立てるうえで、河床高というのは非常に重要である。長いスパンを見て、極端に河床勾配を間間で変えてしまうと急勾配の方につられてしまい、変なところで河床が下がったり、土砂が堆積してしまうことがある。なので、長期的なスパンを見て河床の縦断勾配を決めるというのが一般的なやり方となっている。
- ・「川底が下がっている」という話があったが、黒線のどのあたりか？

【委員③】

- ・木戸川の黒線が青線に変わる部分。

【事務局】

- ・今、計画している赤線の区間については、上流で昔やった改修を睨みながら河床縦断を決めていくという考え方を持っていたが、ここから先のところについては現地の様子を見させて頂き、河床が下がりすぎて取水ができないとか、既存の護岸が倒れてしまうようなことがあるならば…。今日のところでは上流の状況把握まではできていないが、まずは現地の状況を把握し、次に何ができるかを考えさせて頂きたい。
- ・河川改修というよりは、修繕的な考え方になるかもしれないが、それはそれとして現地を見させて頂きたいと思う。

【委員③】

- ・平成18年度の資料（現行整備計画）を見ると、河床を1mくらい下げるという計画が出ている。やはりその時点から河床を下げるという方向性だったようなので、その影響も今、出ているのかなと見て取れる。
- ・また、この地域には小学校と高校が1つずつある。木戸川沿いにあるので、木戸川が満水状態になると内排水（内水氾濫）が起こり、子供たちの通学が危険というか…。踝くらいまで水に浸かって歩いていたり、学校の前が歩けなくなる、というようなこともしょっちゅう起こっている。年に数回起こることもある。
- ・学校の周りには農業用水もあるが、開放水路である。通学路のすぐ隣が用水路のような場所もあり、河川改修する場合にはそういった場所の安全施設の完備についても視野に

入れて是非お願いしたい。個別の内排水（内水氾濫）については、市へもお願いしていく形になろうかと思う。

【事務局】

- ・河川沿いの管理用道路を、例えば市の道路に使うなど、色々と用途はあろうかと思う。安全にも配慮しながら、そういった計画を作っていきたい。

【委員④】

- ・平松用水は旧母里村（伯太川を境にして東と西とに分かれている）の東母里の水田すべてを養う用水であり、それがすべて蛇喰川へ落ちている。蛇喰川はいわゆる排水路的な役割を果たしているが、大水が出る度に周りの耕地が冠水するといった被害を再々繰り返している。今回、計画に挙げて頂き有難く思っている。
- ・実は昭和30年代頃に、^{はらだい}原代地区と井戸地区の両地区から蛇喰川改修促進会を立ち上げて、土木事務所や県に要請してきた。その当時の返答として、「蛇喰川は最終的には安田川と合流して伯太川に流れている。したがって、優先的には安田川が先であり、終わり次第、蛇喰川に移る」という約束をもらっていた。
- ・それから何年か経ち、安田川が完了したので、「じゃあ、次は蛇喰川をお願いします」と言ったが、その当時、流域があまりに長いので用地買収にかなりかかるという観点から、今回の計画と同じ場所で同じような計画を立てた。それで測量をされた結果、当時の伯太川の河床が高くて「この計画は駄目だ」との返事を頂いた。それが駄目なら、やはり下流の拡幅をお願いせざるをえないということで、ずっと待っていたわけだが、それから何十年が経過した。土木事務所の所長さんも代々変わられた。そういった経過がある。
- ・心配なのは、今回も同じ場所で同じような計画がなされているわけだが、一時的にせよ以前に「駄目だ」という返事を頂いているので、そのあたりを非常に心配している。現実には伯太川の洪水時の水位、蛇喰川の洪水時の水位を見ていると、はたして同時に洪水になった時に伯太川へ放流することが可能なのか？そのような心配をしている。
- ・今、素人目で見ても、当時の伯太川の河床よりも3mくらいは計画地点が下がっているのは確かだと思う。そういった点で、今回の計画が可能なのかもしれないと期待はしている。
- ・今回の計画を拝聴するに、魚類や水生植物、あるいは冠水地帯などへも配慮して頂いているようである。昭和30年代当時にはそういったものは聞いたこともなかったわけで、したがって工事費もかさむはずだし、工期も長引くのも当然だと、そのあたりは理解したいと思う。ただ、先ほど申し上げたように、昭和30年代からお願いしていることが未だ完成していないことも事実である。そのあたりをよろしくお願いしたい。

【事務局】

- ・非常に長い期間お待たせしているし、地元の方にご説明する過程において、河川改修の計画が二転三転したことで地域の方にご不安を与えてしまい、大変申し訳なく思っている。
- ・「本当に樋門で大丈夫か？」ということについては、河床が下がったことも踏まえて、現在の河床高や、伯太川上流の弘鶴橋の水位計データ（平成10年頃から設置）を見ながら、伯太川の樋門地点に換算するときちんと排水できるかをシミュレーションしている。そのうえで、それ以降の洪水であれば樋門を早い段階で閉めなくても、蛇喰川の水を伯太川へ流すことができるというような効果を見ながら、今回の計画を作っている。そういう意味では、初期洪水を早く蛇喰川から伯太川へ流すことによって、下流の安全を守っていこうと…。さらには、下流から改修していくと、また長い年月がかかってしまうので、治水効果が早く出る樋門構造にしようということで、今回の計画を作っている。
- ・もちろん、下流から川幅を広げていくというのが一般的な改修ではあるが、長い期間がかかる間、またずっとお待たせすることになる。別の方法があれば、その効果を早く出すために色々検証しながら、今はこの方法がベストと考えてご提示している。
- ・実際の樋門の構造については、環境への配慮や操作の仕方（どれくらいの洪水の時に操作をしたらよいか）について、もう少し詳細検討する必要がある。整備計画は概略設計的なところがあるので、詳細のところでももう少し詳しい検討をしながら、地元の方にご説明する機会もまた出てくると思う。
- ・なににせよ、二転三転と計画が変わったことと、時間が長くかかったことについては、申し訳なく思っている。

【委員⑤】

- ・資料1 p.20に木戸川の河道改修の図面が挙がっている。今回の改修区間は赤線の区間で、その上流部に、先ほど角森さんも仰っていたように、一級河川の万歳川と木戸川、それから左側に一般河川（普通河川）の佐久保川というのがある。実際、この万歳川と木戸川の上流も、民家までは浸からないが、少しの雨でも流域部分が浸かっている状況がある。
- ・ひとつの要件としては、高齢化と人口減少の関係で、これまで自治体単位で川浚いを行っていたが、なかなか高齢化が進むなかでできなくなっている自治会もある。それに伴い、どうしても河川が氾濫するという状況も出てきている。
- ・今回の木戸川の改修に合わせて、上流まで上がって下さいとまでは言えないかもしれないが、逆に上流域の部分について改修計画等が作れないのであれば、そこも少し睨んでもらって、この部分についてはこういう対策をしてあれば、下流の木戸川だけをまずは改修して、上流は修繕対応でもよいのかなと…。そのような形を取って頂くと有難いと思っているので、よろしくお願ひしたい。

【事務局】

- ・上流の河床が下がっている、土砂が溜まっているというような両面の状況があらうかと思う。まずは現地の状況を見ながら、整備計画とは少し別の話になるかもしれないが、何ができるのか、何をしなければならないのかを確認させて頂きたい。

【委員⑥】

- ・資料1 p.14に、吉田川の施行区間が吉田橋から鳥木上橋付近までとあるが、前々から聞いている話では、鳥木水門までは河川改修を行うとのことだったと思う。p.15に鳥木水門が載っており、鳥木上橋から上流30～40mだと思うが、それも含めて計画に入れて頂きたい。
- ・また、現在は吉田橋について県道をまたいでの工事を行って頂いている。p.14を見て頂くと、大塚方面から庇川、松実川が流れており、吉田川へ注いでいる。ほ場整備の時点で、庇川は大塚方面からまっすぐ下り、カクンと折れて吉田川へ出るような形になっている。資料には青線でカクカクと表示されているが、若干は直接吉田川へ流れている部分もある。特に大雨が降ると、その辺りの水嵩が増してほ場整備した水田に入り、海のようなになる。そのような状況が毎年のように起きている。河川改修が終われば、そういう状況にはならないと理解してよいか？

【事務局】

- ・吉田川の上流端の考え方について、鳥木上橋「付近」とさせて頂いている。鳥木取水堰から下流に、堰の管理者としての取付け護岸がいくらか施工されているので、それとの兼ね合いもあり、橋から取付ける部分も多少出てくると思う。橋の地点でバシッと区切ってしまい、そこから上流の改修は行わないということではなく、橋より上流は既設護岸との取付けを睨みながら、最後に上流端を決めていこうと思っている。そういう意味で、鳥木橋「付近」という考え方を持っている。
- ・庇川について、カクンと折れているのが今の県が管理している河川である。ほ場整備をされる時に、現地にて暫定的な取付けを施工されていると思っている。今回の河川改修を上流に延伸する時には、その取付けをきちんとして、排水がまっすぐ吉田川に流れるようにしようと思うので、今よりも水の流れは良くなると思っている。その取付けた区間を庇川の法河川にするのか、河川としては現状のままとして排水路として取付けるのかということについては、今後検討していきたい。いずれにしても、水の流れは、吉田川を改修することにより、現在の流れよりも良くなると思っている。

【委員⑦】

- ・ずっとお話を伺って、地元の皆さんの主な願いはやはり治水だと理解した。体感的に、大

雨がひどくなっていたり、大雨の威力が増していたりするのかな？

<地元委員全員首肯>

- ・だとしたら、治水が一番の優先事項ということだと思う。その時に、今の計画に範囲が含まれないと、ずっと忘れられてしまうという恐れがある。
- ・お話を聞いていると、「ここで河床が下がっている」「ここが危ない」だとか、地元の方はご存じなので、詳細設計をする時にはやはり地元の皆さんの声を聞きながら歩いたほうがよさそうだ。「溢れる時はここから溢れる」だとかを多分ご存じなので、それを聞いていけば、本当に急がないといけない場所が分かってくると思われる。お話を聞いていたらそのような感じがした。

【委員長】

- ・コメントということで、ありがとうございました。

【委員⑧】

- ・5河川でだいたい事業費はいくらくらいか？

【事務局】

- ・5河川を合計すると110億円くらいだと、県では概算で見積っている。

【委員⑧】

- ・広い島根県のなかで、この安来のエリアは30年間で110億円くらいの予算だという感じで割り当てられている、という理解でよいか？

【事務局】

- ・そのような予算を見積って、今の計画を作っている。20～30年でできる計画というのは、どうしてもある程度予算的などころも睨みながら作っていかないといけないので、そういうの見積っている。割り当てられているというわけではない。

【委員⑧】

- ・今回は5つの河川が対象になっている。私も現地を詳しく判っているわけではないので、資料を見せてもらって「ここと、ここと、ここですよ」と言われても、なかなかその場所が本当に切実なのか判断がつかない。今日いらっしゃっている地元の方々は、それぞれ身をもって「何とかしてほしい」と言われる。その想いはすごくよく解るが、では他の場所については、本当にそういう所がないのか？どのような客観的な基準でここが選ばれているのかを説明してほしい。

【事務局】

- ・ 県が管理する河川だけでも 590 近い河川があり、河川改修が終わっていない河川もたくさんある。そのなかで、どこの河川を進めていこうかというひとつの指標として、「近年洪水で家屋浸水が発生した所」で事業をやっていると考えているところである。
- ・ ここで挙がっている河川については、以前から改修計画があり進めている場所もあるし、近年家屋浸水が発生したということで事業を追加した場所もある。それがひとつの指標というか、目安になると思う。

【委員⑧】

- ・ 浸水はかなり客観的なデータとして挙がっていて、それを基にということではいいか？

【事務局】

- ・ 毎年、色々なデータや聞き取りなどがある。水害統計データというのを持っているし、市町村から提供されるデータもある。それ以外にも、地元の声として聞いている話も当然ある。いずれにしても、そういったところで家屋の浸水被害の有無を把握しながら、事業河川に入れるかどうかを判断している。

【委員⑧】

- ・ 資料 8 のアンケートについて…。

【委員長】

- ・ アンケートについては、また議事の後半で。
- ・ 時間がすでに 30 分押しているので、私からの提案であるが、現地見学は希望者のみとしてもいいか？

【事務局】

- ・ すでに現地をご存じの方、あるいは地域的にそこを見てもなかなかご意見が出ない方もおられると思うので、そのようにさせていただきたい。

【委員③】

- ・ 木戸川の黒線部分について、素人の私が言っただけなんだけど、工事が非常に簡略的なやり方でなされている。護岸はフトン籠で施工されており、河床も少し下がったような所があり、雑木がかなり生え出している。堤防にもかなり大きな木が生えていて、林のようになっている。
- ・ 黒線と青線の境には親水公園があるが、これも何十年間ほったらかしの状態である。完全

に島の状態で、高速から下りてみると「どこだ、ここは？」というようなくらい不自然な状態。

- ・実際には親水公園は県の持ち物であるし、河川での伐採も県の担当ということである。我々も側道を使わせてもらうが、やはり通りにくい。だから切ってくれと申し入れをしているが、「勝手に切ってもらっても困る」、「根っこが腐って大変なことになるから」ということで（地元も）手を出していないけれども、満水になった時に流木が引っかかるというようなこともある。実は去年も倒木があったが、それはすぐに撤去して頂いたので、まずはひとまず安心した。先週の月曜日にも子供たちが通学する橋が木で覆われており、ちょっと通学できないなということで県へ電話した。そしたら、その日のうちに安来市の方で対応してもらって、市道の関係でやってもらったということもあった。
- ・やはり予算が回らない部分があったりして、結局は後手後手の対応になるという形もあるので、是非、そういった維持管理も含めて、今後…。今、若い連中がいる場所はよいが、高齢化がもっと進むとほとんど手が出ない、業者に任せるしかないというような悪循環に入ってくると思うので、是非、そういった長期的なことも考えたうえで工事のやり方、管理のやり方等についてもお願いしたい。

【委員長】

- ・そろそろ時間で、一旦ここで終わらせて頂いた方がよいかと思う。
- ・特に地元の委員からの熱い想いというのは、県にも十分伝わったかと思う。大事なのは、やはり両者が話し合ってお互い歩み寄ることなので、今回の意見を基に、また事務局でも考えると思うので、次回の委員会までによくよく地元と調整して良い案にして頂きたい。

<< 休 憩 >>

(2) 河川整備計画、付属資料（素案）について

- ・事務局から配布資料2について説明

(3) 住民意見の聴取について

- ・事務局から配布資料8について説明

【委員⑧】

- ・正直に言って、すごく抽象的な設問であり、このアンケートの結果で何が得られるんだろ

うと思う。

- ・先ほど地元の委員から「この先をもうちょっとやってほしい」等の意見があったが、例えばそういう意見を拾えるようなアンケート設計にするべきではないか？具体的には、もう少し地図を拡大して「地図に書き込んでください」みたいな形で、「ここが困っている」「ここをこうしてほしい」というような要望をもらえるような形にするべきではないかと思う。
- ・もっと話を広げると、そもそも私は「なぜこの5河川なのか」「この5箇所だけでいいのかな」と思うわけだが、5つの沿川の住民だけのアンケートで本当によいのか？安来市全体となると、アンケートの打ち方も含めて大ごとになるが、例えば市報などを使って「この度、河川整備計画の見直しをしているので、幅広く洪水、河川整備について意見を集めています」とか、そういうふうにはできないかなと思った。
- ・これは委員長に質問として返したいが、いかがか？

【委員長】

- ・アンケートに関しては、たぶんこれが一般的な形のものではないかと私は理解している。仰るとおり、細かい所が拾えるか（ということについては）、個人的な思いであるが、「どこまで改修するか」というのは、その前の段階の話で吸い上げておくべきものであって、今からそれを吸い上げてまた作るとなると、計画を一から練る形になってしまうのではないかという気がする。それは今までにやっておかなければいけないことだと私は思う。住民の方にとっては、「十分にできていない」とご不満のある方も多いかもしれないが。

【事務局】

- ・「河川改修をどこまでするか」「どこの河川を対象にするか」というのは、おそらく地域の方に個々に聞くと、皆さんが「自分の家の前」だとか「私の所も」だとかいう意見が出かねないと思われるので、ある程度は行政的な判断で、予算も睨みながら（多少数百mの距離の違いはあるにせよ）、「ここを改修していきます」ということは示していかないといけないと思っている。
- ・そのうえで、ここの河川の改修の考え方というのを知って頂くことも、アンケートのひとつの意味だと思っている。「こういう河川で、こういう改修をします」というのを見てもらいながら、そのうえで自由意見があれば、アンケートの最後の「その他自由意見」のところでご意見を頂くような形を河川課では考えている。そのようなアンケート構成にしている。

【委員長】

- ・ちなみに、アンケートの配布はどのように？

【事務局】

- ・アンケートの配布先は、今回の5河川の流域全体ということで、世帯数にすると6,200世帯を対象に配布する。
- ・加えて、今回が初めてであるが、Webという形で、これらの流域でない方にもアンケート意見が聴取できるように、河川課のホームページで出して、自由意見を頂くことができる仕組みにしようと思っている。
- ・ただ、「こういうアンケートをやっています」ということが、なかなか皆さんに広がるかどうかということはあるので、県河川課の広報機関紙等に載せながらということはある。
- ・そういうことで、流域以外の方にも意見を聴取できる仕組みを今回は考えている。

【委員⑧】

- ・せめて安来市の広報と連携できないか？県の河川課のホームページなど一体誰が見るのか？市の広報で「県の河川整備計画を今作っていますのでご意見ください」「このホームページを見てください」と言っているならまだ分かるが、県の河川課のホームページではあまりにも…。

【安来市】

- ・安来市で同様なことをする場合、当然、市の広報誌やホームページなどは使う。ただ、定期的なことを言うと、市の広報誌にするとちょっと期間的にギリギリである。次の10月20日号が9月20日（に掲載記事の）メ切なので、（アンケートメ切まで）10日間ほど残りの期間があるかなという状況になると思う。
- ・もうひとつ、市内に「どじょっこテレビ（ケーブルテレビ）」があるので、そういうところでPRするのもよく使う方法である。今回の件についても対応は可能だと思う。

【委員⑧】

- ・是非、活用してほしい。

【委員長】

- ・事務局は安来市と連携して、できるだけ広報するように努めてもらいたい。

【委員⑨】

- ・6,200世帯とのことだが、一世帯に対して一回答を求めるのか、世帯の人数に対して二十歳以上の人達を求めるのか？それにより母数が変わってくるので、回収率等も変わってくると思われる。

- ・河川の改修についても書いてあるが、この計画が30年という期間であるならば、例えば河川の学習をしているような高校生や中学生にも興味を持ってもらい、自分たちの地域の川がどうかというのを知ってもらうよい機会として、お役に立てて頂けると、より地元愛のようなものも出てくるんじゃないかなと思う。そのように感じたので、また検討頂ければと思う。

【委員長】

- ・各自治会への説明会のようなものも適宜行われるか？

【事務局】

- ・アンケートに関して、個別に説明会は予定していない。もちろん、改修計画の詳細設計の段階では個別にさせて頂くが、アンケートについては一般的な自治会配布という形を考えている。
- ・世帯からの聴取について、今は一世帯一枚配布で、紙としては1枚を返信して頂く形。使われる方、使われない方もおられると思うが、Webを使って回答もできるということで複数回答して頂くこともできるし、もちろんコピーして複数の方に回答して頂くということも可能。配布としては一世帯一枚という形を今は考えている。
- ・小中学校については、十分ではないかもしれないが6,200世帯というかなりの範囲に配布するので、小中学生も含んだ形になるのかなと思いき、個別には予定していない。けれども、お話を頂いたので、少し考える時間を頂きたい。

【委員⑨】

- ・小学生にはこの質問はちょっと難しいかも。市内には安来高校と情報科学高校があり、安来市外の子達もいるが、やはり地元に通っているのならば、地元のことは知らないといけないと思う。いわゆる教育になるのではないかと思う。

【事務局】

- ・参考にさせて頂く。

【委員③】

- ・今、安来高校では地域学習をたくさん行っている。地域の課題、例えば、お年寄りがどう生活したいかだとか、看護だとか、地域を盛り上げるにはどうしたらよいか、など色々な活動を20くらいのグループに分かれて、地域の中に出て行き会話をしながらやっていくという活動がある。そういうところに投げ込めば、きちんとアウトプットが出てくると思うので、是非ご検討頂きたい。

【委員長】

- ・特に治水の問題というのは、沿川の方は真剣に思うかもしれないが、なかなか事が起こるまでは真剣には考えてもらえない。それが河川行政の難しいところかもしれない。

【委員⑤】

- ・6,200世帯を対象としているが、回収率はどれくらいを見込んでいるか？

【事務局】

- ・十分ではないかもしれないが、母数を従来よりもかなり増やしているのは、例年あまり集まらないからということもある。少しでも、回収の率というよりは数を上げたいということで、分母を増やしている。前回や前々回がどれくらい集まったかというデータをちょっと今は持っていないが、かなり回収率は低いので、そういう意味で多めに配布したいと考えている。

【委員⑤】

- ・もうひとつ、「斐伊川水系中海支川域河川整備計画」という言葉で書いてあるが、実際にこれを知っている人はどのくらいいるのか？ということがある。こういった計画について、もう少し目的が何で、使い方としてはこんな使い方をするんだ、というようなイメージを書くのもありかなと。アンケートの目的を読ませてもらっても、プロ的に書いてあり、そういうことをやっている方なら分かるかもしれないが、一般住民の方にはこれだと全然（回答が）返ってこないのではないかと思う。もう少し工夫をされて出されたほうがよいと思う。

【委員長】

- ・アンケートの目的等がザクッと書いてあるので、もう少し補足してもよいかもしれない。

【事務局】

- ・配布までにあまり時間はないが、可能な限り一般の方にも分かりやすいようにしたい。絵や写真なども少しずつ増やしていたが、大元の「何のために改修するのか」ということを、もう少し分かりやすいように考えさせて頂きたい。

【委員⑦】

- ・アンケートでも目的のところが分かりにくかったし、整備計画についても分かりにくいとの意見があったと思う。地元の方が言うには、「平常時の流量は減る」、「砂は流れてこない」、「でも降る時にはドッと降る」、「災害が大きくなっている」、「なので改修が必要であ

る」というような流れなのだろうと思う。その辺りのことを分からないままアンケートに答えるのは苦しい、ちょっと分かりにくいわけである。きっとそのようなことなのだと思う。

【委員④】

- ・住民の意見を聞くということは大変重要なことだと思うが、要望はたくさんあると思う。先程、委員長のご指摘にあったように、それらをすべて拾い上げていると、また新たな計画をせざるをえない事態が起りかねないと思う。願わくば、今の対象地域を中心としたアンケートに留めて頂きたい。

【委員長】

- ・ひとつの意見として承っておく。
- ・だいたい意見は出尽くしたか？そうしたら、終わりも大分迫ってきているので、若干復習的にまとめておきたいと思う。
- ・前半の方が話が非常に盛り上がり、地元の想い、「こうして頂きたい」というのが事務局側にも非常に伝わったのではないかと思う。今後、地元ともう一度話をしながら、何がいいのかというのをよく決めて頂く。同時に、もう一点の課題としては、地元の方から「こういうふうな川の状態になっている、知っているか？」という意見が何点かあったと思う。そこについては再度確認して頂いて、今の計画に齟齬がないかというのをよくよく確認されたい。前半のところでは、その2点が私は気になった。
- ・後半については、計画の本紙のところは淡々とまとめて頂いたらよいが、アンケートもひとつの大事な要素と思う。せっかくアンケートをするのに、一般の方にはわかりにくい事項が何箇所もあるので、それはできるだけ変えて頂きたい。
- ・広報の仕方についても、安来市とも連携しながら、できるだけ幅広いアンケートの回収に努めて頂きたい。

【事務局】

- ・長時間に渡りご審議頂き、ありがとうございました。
- ・本日皆様から頂いたご意見を踏まえ、事務局で原案を作成させて頂く。また、本日頂いたご意見以外でも、引き続き意見があれば、9月29日金曜日までに事務局に連絡をお願いする。
- ・本当はこの後に現地視察という流れであったが、希望者のみとなったので、一旦この会を締めさせて頂く。その後、ご希望の方については現地をご案内させて頂きたい。
- ・最後に、事務局から事務的な事項について申し上げる。次回開催は、12月頃に第2回の委員会を予定している。委員の皆様には引き続きよろしく申し上げます。

4. 現地視察（木戸川） ※希望者

- ・事務局から現地案内説明